

授業科目(ナンバリング)	生活支援技術VB (DB313) (実践的教育科目)			担当教員	※田中 千恵美 (実務経験のある教員)		
展開方法	演習	単位数	1単位	開講年次・時期	3年・後期	必修・選択	選択 (介護必修)
授業のねらい							アクティブ・ ラーニング の類型
<p>本演習は、尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とするため、生活支援技術IA～IVBを踏まえる。その上で疾患や障害等による利用者各々の特性に対応した実践力を修得する。</p> <p>介護を必要とする利用者に対しては、その特性の如何にかかわらず、各々の利用者の望む環境で、生活を維持できるよう支援していかねばならない。本演習では、利用者の尊厳保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得していく。様々な機能障害が起こり、疾病等が生じる事例などを、実務経験を踏まえた事例やディスカッションなどを織り交ぜながら、より理解を深めていく。</p>							③⑧⑨⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	利用者各々の疾患や障害の特性を科学的な根拠も踏まえて理解し、適切な介護技術の展開及び多職種との連携を主体的に展開する具体的な方法を説明できる。				・小テスト ・定期試験	10% 40%	
情報収集、分析力	利用者の疾患や障害の内容を調べ、それらに影響を及ぼしたりまたは起因する背景についても調べ、それに対し指摘できる。				・課題レポート	10%	
コミュニケーション力	疾病や障害がある利用者により適切な支援方法を、ディスカッションを通して自分の考えを表現し深めることができる。				・ディスカッション	20%	
協働・課題解決力	疾病や障害がある利用者により適切な支援方法をディスカッション等を通して自分の考えを表現し深めることができる。				・定期試験	20%	
多様性理解力	疾病や障害があり、個別の価値観や生活史を持つ利用者により適切な支援方法を展開できる力を培うことができる。				・定期試験		
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の成績を60%とし、筆記試験を行う。 ・小テスト(10%)5回目に30分程度の小テストを行う。 ・課題レポートの成績を10%とする。詳細は授業中に説明する。 ・授業中のグループディスカッションの取り組み(20%)や演習態度なども勘案して総合的に評価する。 ・小テスト及び課題レポート等のフィードバックは授業中に適宜行う。また、小テストの内容は自己学習の資料としても使用する。 							
授業の概要							
<p>生活支援技術IA～IVBを確認し、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術を学ぶため、多様な疾患や障害のある利用者を設定し、基本を振り返りながら、事例をもとに、アセスメント、支援方法の検討、デモンストレーションを行いながら、利用者への生活支援技術を学ぶ。また、医療的な側面についても、医療職とうまく連携が取れるよう必要な知識・技術を学ぶ。更に、様々な機能障害が起こり、疾病等が生じる事例などを、保健師・看護師の経験を踏まえた事例などを織り交ぜながら、より理解を深めていく。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：最新・介護福祉士養成講座8／生活支援技術Ⅲ／中央法規 最新・介護福祉士養成講座14／障害の理解／中央法規 ぜんぶわかる人体解剖図／成美堂出版</p> <p>参考書：日野原重明監修／介護を支える知識と技術／中央法規</p> <p>指定図書：特になし</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

利用者のもつ疾患や障害等に対応し、利用者の多様な状態・状況に応じた生活支援を行うために、今までに学んできた基本的な生活支援技術を実践に活かせるように、復習しておいて下さい。また、日頃から、利用者の尊厳の保持や自立支援も配慮できるよう考える。

演習にあたっては、多様な利用者の生活支援への応用や工夫ができるよう自ら考え、取り組むことを期待する。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	清潔操作の技術	<実習>清潔操作の理解、実践 口腔清潔、整容その他	予：口腔清潔、髭剃りの援助調べ 復：要点整理
2	呼吸不全、心不全、肝機能不全の対象者に対する清潔支援の技術①	<実習>呼吸不全、心不全、肝機能不全の利用者に対する清潔援助の理解、実践	予：それぞれの対象者の援助の留意点をまとめる 復：要点整理
3	呼吸不全、心不全、肝機能不全の対象者に対する清潔支援の技術②	<実習>呼吸不全、心不全、肝機能不全の利用者に対する清潔援助の理解、実践	予：対象者の援助の留意点をまとめる 復：要点整理
4	知的障害に応じた介護	知的障害が生じる病態を学び、考えられる機能障害および療養について考え（食事、清潔、排泄等を含む）、生活支援、環境整備、多職種との連携についてグループワークを通して考える。	予：知的障害が生じる病態調べ 復：要点整理
5	重症心身障害に応じた介護①	重症心身障害が生じる病態について学び、考えられる機能障害および療養について考える。（食事、清潔、排泄等を含む）	予：重症心身障害が生じる病態調べ 復：要点整理
6	重症心身障害に応じた介護②	重症心身障害のある人への生活支援、環境整備、多職種との連携について考える。	予：重症心身障害の生活の不便な状況実例を調べ 復：要点整理
7	高次脳機能障害がある人への支援技術	高次脳機能障害のある人に対しての生活支援技術について一連の援助技術を学ぶ。（食事、清潔、排泄等を含む）	予：高次脳機能障害の実例調べ 復：要点整理
8	発達障害がある人への生活支援技術①	発達障害が生じる病態を学び、考えられる機能障害・適切な支援を考える。（食事、清潔、排泄等を含む）	予：発達障害の実例調べ 復：要点整理
9	発達障害がある人への生活支援技術②	発達障害のある人への生活支援、環境整備、多職種との連携についてグループワークを通して考える。	予：発達障害の生活の不便な状況の実例調べ 復：要点整理
10	精神障害のある人への生活支援技術 ①	精神障害のある人に対しての生活支援技術について一連の援助技術を学ぶ。（食事、清潔、排泄等を含む）	予：学生自身の精神疾患イメージについてまとめる 復：要点整理
11	精神障害のある人への生活支援技術 ②	アルコール依存症及び精神保健福祉法、県や市町村の役割について学ぶ。	予：断酒会、AAの会調べ 復：要点整理
12	精神障害のある人への生活支援技術 ③	精神障害のある人のへの就労について学ぶ。	予：精神障害者の就労時の困難さ調べ 復：要点整理
13	認知症のある人への生活支援技術①	認知症のある人への生活支援技術について一連の援助技術を学ぶ。（基礎知識、食事、排泄、清潔、コミュニケーション）	予：認知症発症の基礎疾患調べ 復：要点整理
14	認知症のある人への生活支援技術 ②	認知症がある人を介護する家族の支援について学ぶ。	予：認知症介護者のストレスを調べる 復：要点整理
15	多職種との連携	他の職種の役割を理解し、協同と介護福祉士としての役割を学ぶ	予：与薬時の医療職連携について調べ 復：要点整理
16	定期試験		